

## 南無ちゃんのブログ 2014年6月

6月1日(日) 解禁日ボウズの千代川.....	2
6月2日(月) 日野川上流部.....	2
6月4日(水) 梅雨入りしたみたい.....	3
6月5日(木) ドライタイトの水密試験.....	3
6月6日(金) VVFストリッパー.....	4
6月7日(土) 農作業の日.....	5
6月8日(日) 高津川に来ました.....	5
6月9日(月) 匹見溪温泉.....	6
6月10日(火) ダイワマスターズ高津川大会.....	7
6月11日(水) 匹見峡温泉はパラダイス.....	7
6月12日(木) ブドウ園で農作業.....	8
6月13日(金) ジャパンカップ下見.....	9
6月14日(土) シマノジャパンカップ千代川大会.....	9
6月15日(日) 千代川(智頭)解禁.....	10
6月16日(月) 袋ダモの修理(改良?).....	11
6月17日(火) 農作業の後で鮎釣り.....	12
6月18日(水) 鮎仕掛用ツールの改良.....	13
6月19日(木) 農作業&鮎釣り.....	13
6月20日(金) 日野川(生山)で鮎釣り.....	14
6月21日(土) 袋ダモの改良(その2).....	14
6月22日(日) 九頭竜川に到着.....	15
6月23日(月) 九頭竜川遠征初日.....	16
6月24日(火) 九頭竜川遠征二日目.....	16
6月25日(水) 九頭竜川遠征三日目.....	17
6月26日(木) 九頭竜川遠征四日目.....	18
6月27日(金) 九頭竜川遠征五日目.....	18
6月28日(土) 九頭竜川遠征六日目.....	19
6月29日(日) 九頭竜川から帰宅して.....	19
6月30日(月) 原因はブドウスカシバか?.....	20

## 6月1日(日) 解禁日ボウズの千代川

昨日から千代川に来ています。今朝は7時前から川に入りましたが、恥ずかしながら釣果＝ゼロでした。12時までへろへろのオトリで頑張りましたが、力尽きてあえなく撤収。負け惜しみですが、ボウズっていうのも良いもんですよ。釣った鮎が居ないので、世話をする必要がないのです。昨夜は鮎友のUさんとYさんに再会できて、快晴の空のしたで、川の中で友鮎と散歩できただけ十分楽しい一日、否、半日でした。

これ以上長居するのは時間の無駄だと決めて、日野川に向けて移動を開始しました。今日は蒜山の道の駅、車中泊です。明日は、もう解禁日じゃあないし、普通の月曜日なのでゆっくりと出陣する予定です。

## 6月2日(月) 日野川上流部

解禁二日目の日野川上流部に転戦しました。月曜日だし、解禁日も過ぎたので、平井美容室で年券と罎と情報を仕入れて、コーヒーをご馳走してもらってゆっくりと10時頃のスタートです。昨日は平均的に30～40尾の釣果があったとのことで、10時前に霞方面の川を見ると、すでにびっしりと釣り人が入っていました。

仕方がないので、霞大橋上流の空いているポイントに入って釣り始めました。魚影はありますが、全然反応がありません。おとり屋さんの話によると、霞の鮎は12時頃にスイッチが入るといっていたので、辛抱して待っていると、昼前頃からぽつぽつとかかり始めました。一時頃に遅めの昼食を摂って、釣りを再開しました。結局、釣果は14尾でした。サイズは11～14cmと小さいものばかりでした。二日目ですから仕方がないですね。

このあたりには、道の駅というものがなかったので、車で1地時間ほど移動して、島根県の道の駅で車中泊しました。もちろん、夕食の酒の肴には、釣りたての若鮎を焼き物を頂きました。冬の間に作った竹炭を起こしました。竹炭は着火が早いので、とても有用であることが実証されました。



## 6月4日(水) 梅雨入りしたみたい

今朝、Uさんに別れを告げて、鮎釣り合宿から帰宅しました。4日振りに苗箱を覗いてみると、ゴーヤが芽を出していました。ゴーヤの種はトウモロコシの種2個分位の大きさで、結構大きいだけあって、芽が出るのも早いようです。

家に着いた時には曇りだったので、片付けや洗濯をしてから、誘引・摘心などの農作業をしにブドウ園に行きました。

午後から雨が降り始めましたが、簡易トンネルの下なので、雨には濡れずに農作業できました。4日振りなので、農作業は午後5時頃までかかりました。

雨はシトシトと降り続いていて、まるで梅雨のようです。夕方ニュースを見ていると、中国地方は今日から梅雨入りしたとのことでした。



## 6月5日(木) ドライタイトの水密試験

6月1日の解禁日は暑い日でした。梅雨入り前に湯水した千代川で、今年購入したドライタイトを着用していたところ、お屋に川から上がってタイトを脱ぐと、タイトの中から相当の水が出てきました。買ったばかりなのに、穴が開いているんじゃないかと思いました。ひよっとしたら、暑かったので汗が大量に出たのかもしれませんが。

翌日は日野川で同じタイトを着用して、同じように水がタイトの内側に溜まっていた。これは絶対に穴でも開いているんじゃないかと疑惑を深めたのでした。

そこで、本当に穴が開いているのかどうかを調べるために、水道水をホースで、ドライタイトの中に溜めて、2時間程放置してみました。所謂、水密試験です。あれだけ水が溜まっていたのに、水漏れ箇所は発見できませんでした。ドライタイト表面を入念にチェックしましたが、水が滲んだ痕跡を発見することはできませんでした。どうやら、あの水は体から出た汗のようです。

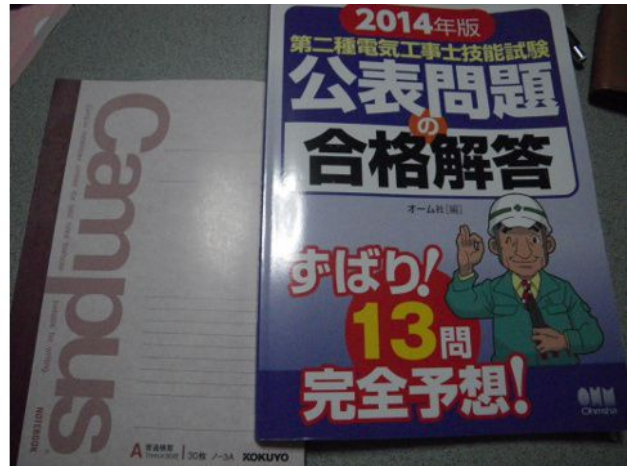
以上のことから、ドライタイトに穴があいている箇所はなく、恐らく暑かったので汗がタイトの中に溜まっただろうという結論に達しました。

写真 2枚

朝から本格的な雨だったので、今日は無線小屋でパソコンをいじったり、電気工事士試験の勉強をしました。昨年、初挑戦して見事、落第しましたので、今年は是非とも合格したいものです。試験は7月末なので、なるべく早めに勉強を開始しました。日頃、電気工事などしないので、昨年勉



強したこともすっかり忘れていたようです。この試験は実技試験なので、机上での勉強は早めに取りをつけて、実技の練習をしたいものです。



## 6月6日(金) VVF ストリッパー

今日は朝から雨がシトシト降っていましたので、昨日に引き続き電気工事士試験の勉強(訓練)をしました。この試験の学科は免除されているので、実技試験のみです。実技試験というのは読んで字の如く、技のレベルで合否判定されるのです。

恥ずかしながら、昨年この試験を受験したのですが、不合格になりました。手が遅くて、時間内に作品を完成できなかったことが原因です。日頃から、電気工事をやっていたら手も早くなるのですが、なにせ隠居の身で、日頃はブドウの世話をしたり草刈をしているので、無理です。

言い訳に聞こえるかもしれませんが、これまでの経験から、道具が大いに関係していると思います。そもそも道具は、早く安全・確実に作業するために日々改良されているのです。

電気工事士試験には、道具(工具)を持参することになっていて、必須の工具というものまで指定されているのです。例えて言うなら、筆記具として、鉛筆と消しゴムと鉛筆削り用のナイフを持参しなさいという具合です。指定された工具以外の工具を持参しても構わないので、大いに道具の力の差が出てきます。



昨年受験した経験から、VVF ストリッパーは是非とも持参したい道具の一つです。電気ナイフがあればケーブルを剥くことは可能は可能なのですが、慣れていないものにとっては、ケーブルを剥いたり電線の被服を剥いたりするのに結構な時間がかかってしまいます。ホーザンの P-957 という VVF ストリッパーを、今年の電気工事士試験のために購入しました。

[http://www.hozan.co.jp/catalog/Wire\\_strippers/P957.html](http://www.hozan.co.jp/catalog/Wire_strippers/P957.html)

或る程度、練習も必要だろうと思って、P-957 を使って VVF ケーブルを剥く練習をしました。思った通り、電気ナイフとはえらい違いです。これで今年は合格間違いなしです！??

## 6月7日(土) 農作業の日

入梅後やっと雨があがった朝でした。そろそろ鮎釣りに出動したいのですが、その前に農作業をこなしておく必要があるので、朝からせせせとブドウ園に出掛けました。午前中に誘引・摘心・棚付け作業と草刈をして、午後から少し出かけて、夕方に防除作業をしました。

これで、少しの間は遊びに出かけられそうです。夕食後に家を出て、高津川に向かっていきます。今夜は、中国道・吉和 SA で車中泊です。



## 6月8日(日) 高津川に来ました

今期初めて高津川に来ました。六日市 IC で降りて、柿木、左鐙、日原と川を見ながら日原の道の駅に 9 時ごろ着きました。道の駅で Y さんと O さん + おとり屋の宮島さんに会って情報交換したところ、どうも本流ではあまり釣れていないようです。

来る途中で、左鐙の小学校前の橋の上から見ると鮎の群れが見えたので、一番はそのポイントに入ろうと引き返して着きましたが、小林漁業さんが先に到着されていたので、私はもう少し下手に入りました。

午後 1 時頃まで頑張って、11 尾の釣果でした。昼食後に、再開しましたが 1 尾を追加したのみでした。3 時前に上がって、匹見温泉を目指して移動しました。長沢第二トンネルが開通していたので、日原から匹見温泉まで僅か 30 分程で移動できました。

匹見温泉に到着したのは午後 4 時頃でしたが、まだまだ人は居ました。小学校裏のポイントに入って頑張りましたが、3 尾を追加したのみです。そろそろ上がるかと上を見ると、阿部さんがい



らっしゃいました。昨年はお会いしませんでしたので、2年ぶりの再開です。その後、一緒に温泉に行った後、阿部さんの別荘で話に花が咲きました。



## 6月9日(月) 匹見溪温泉

朝7時過ぎに起床して、朝食をご馳走になった後で、阿部さんの匹見温泉溪周辺のパトロールに同行して釣り人の入川状況を見た後で、10時頃諏訪橋の下の入りました。天気は上々で、時折晴れ間も覗いていましたが、昼前から風が強くなりました。最初にバラシが2回続きましたが、鮎が居ることの証です。辛抱して泳がせて待っているとポツリポツリと小さな鮎が掛かります。

途中で場所を移動しようかとも思いましたが、面倒なので、4時まで諏訪橋周辺をうろちょろしていました。結局、今日も14尾の釣果でした。此処の所、何故か14尾という数字が続いています。

昨日の釣果と一緒にして、田万川の家内の実家にお土産として届けました。田万川の実家でシャワーを借りて、さっぱりして夕食をご馳走になってから、明日のダイワの大会に備えて、日原の道の駅に向かいました。道の駅では、大会の前夜祭で盛り上がりました。



## 6月10日(火) ダイワマスターズ高津川大会

高津川の本流は魚影が薄いということだったので、下見もせずいきなり大会に突入しました。くじはBブロック173番という凄く大きな数字だったので、スタート順もどちらかという遅めの方でした。道の駅周辺は駄目だと聞いていたので、ちょっと遠いのですが、富田洞門の下流にある瀬肩を目指して走りました。今年購入したダイワのドライタイツとシューズで軽快に走ることができたので、瀬肩に一番乗りできました。

鮎釣りは「一にポイント、二にオトリ・・・」と謂います。この瀬肩は私の好きなポイントでもあります。私の下の瀬中の人先ず、最初に掛けたので少し焦りましたが、何とかオトリをつなぐことができ、良型の鮎ばかり3尾釣ることができました。本流は釣れないとは聞いていたのですが、私としては上出来です。

予選の結果は、自分でもびっくりのBブロック2位(1位と同尾数)での通過です。

決勝では、上流に向かいました。入ったポイントは池村洞門の大岩です。ここも私の好きなポイントです。しかし、今年はずっとは様子が違ったようで、色んな場所にオトリを運びましたが、ちつともあたりがなくて、結局ゼロ尾でした。

決勝の優勝者は3尾で、2尾の人が8人、1尾の人が1人という具合で、今年の高津川の魚影の薄さを反映した結果でした。私も何かの間違いで、1尾掛かっていたらブロック大会に進出できたかも・・・

何はともあれ、それなりに楽しい大会でした。



## 6月11日(水) 匹見峡温泉はパラダイス

大会のために高い高速道路料金とガソリン代を使って高津川まで来たことでもあるし、折角年券を買ったので元を取るべしと思って、今日一日、匹見峡温泉周辺で鮎釣りをしました。

朝9時頃、浸けていた鮎を回収して目的のポイントに向かいましたが、匹見峡温泉周辺の釣り人は疎らでした。今日は曇り後、薄日が射したかと思うと小雨という天気でした。朝9時から川に入って、午後4時まで昼飯抜きで鮎釣りに没頭しました。忙しい程ではありませんが、テンポ良く釣れたので、面白くて昼飯どころではなかったのです。サイズは13~18cm位で、釣果は41尾でした。高津川は釣れないと言うけど、これだけ釣れれば私は大満足です。匹見峡温泉は私の鮎釣りパラダイスです。



匹見峡温泉のような溪流相の釣り場には、袋ダモが便利だろうと思って新調していましたので、使ったところ中々グーでした。曳き船は川岸に置いて、葦や石に隠れて釣りました。



## 6月12日(木)ブドウ園で農作業

昨夕、匹見溪温泉を出て、戸河内ICで中国道に乗り、江の川SAで朝まで仮眠をとりました。(仮眠というより熟睡?!) 午前7時頃には帰宅しました。いつもの起床時間と同じです。久しぶりに朝ごはんを普通に食べて、8時頃からブドウ園に行きました。

4日も経つと、かなり蔓が伸びていました。ブドウ園で誘引・摘心・防虫作業をしました。午前中4時間と、午後から2時間の合計6時間黙々と作業をしました。天気は朝の内、晴れたり曇ったりしていましたが、午後からは雨でした。最初はポツポツだったのですが、その内に土砂降りになりました。

ブドウ園はビニールのトンネルで覆われているので、足元ずぶぬれになりましたが、作業をするには少し涼しいくらいで良いカンジです。

5時頃になると雨が上がって陽射しが出て来たので、明日からの千代川遠征に備えて車を洗車しました。





## 6月13日(金) ジャパンカップ下見

朝からせっせと落花生やゴーヤの苗を定植してから、家を10時過ぎに出て、明日のジャパンカップの下見に千代川に来ました。生憎の増水と濁りのため、試合会場の出合橋近辺での入川は断念して、解禁日のリベンジをしようと船久橋の上流に入ってみました。

ここも増水していましたが、笹濁り程度なので、何とかなるだろうと思ったのですが、ウグイが1尾釣れたのみでした。



## 6月14日(土) シマノジャパンカップ千代川大会

大会参加者は63名。二年連続で中国地区大会は中止されていたようで、久々の大会の割には参加者が少ないようです。昨日の下見も不釣だったし、解禁も坊主だったので、試合での釣果も期待できません。番号は39番で中盤ですが、特に走ることもせずに出合橋を渡って新片山橋の下流に入りました。歩いていく途中で知り合った?さんと二人だけです。竿を出して30分もしないうちにあたりがあって、1尾かかりました。千代川釣行3日目にして初めて掛かった鮎です。

その後、あたりはさっぱりありませんでした。どうも交通事故だったようです。ダイワマスターズ高津川大会で10尾掛けたという名手?さんにもあたりは無かったようで、?さんは先に場所を移られました。私も諦めて移動している時に、出合橋下流右岸側の瀬肩で釣っていた人に釣果を聞くと1尾だということで、ここで1尾ということはひょっとしたら1尾で予選通過できるかも知れないと思い竿も出さずに、本部に検量に行きました。すると、「まだ1時間以上試合時間があるので、もう少し楽しみましょうよ」と促されて、出合橋下流左岸側で釣っていた?さんに釣果を聞くと、彼もやはり1尾でした。「1尾では決勝進出は微妙だと思う」とのコメントです。そろそろ場所を放棄する釣り人も出始めたので、ちょっと強めの瀬にオトリを出してみました案の定反応はありません。暫く竿を出していましたが、下手に根掛りでもしたらロストしてしまいます。釣りを続ける方がリスクが高いと判断して、早めに検量しました。

予選では、オトリ込み3尾の人が10人いて、ジャンケンで5人が決勝に進むことになりました。?さん?さんと共にジャンケンで予選落ちになり、決勝進出は果たせませんでした。

決勝ではオトリ込み5尾の方が優勝、4尾でトーナメント勝ち進みでした。

明日は上流の智頭と若桜が解禁になるということで、もう一泊するつもりです。大会が終わった後で、?さんと合流して、用瀬のダイヘン前に行きました。道路からみると群れ鮎が沢山いましたので、

ここで夕方まで遊んで5尾の釣果です。千代川3日目にして、大会での釣果も含めて6尾の鮎を掛けたことになりました。トホホ・・・です。ダイヘン前で釣っていた?さんと話をすると、明日の智頭解禁に行くので今夜は車中泊の予定だということで、?さんと合わせて三人一緒に行動することになりました。鳥取ポカポカ温泉に行って疲れを癒して、河原道の駅の駐車場で楽しいミニパーティーと相成りました。



## 6月15日(日) 千代川(智頭)解禁

朝5時に起床して、昨日釣ったポイントに浸けておいたオトリを回収して、智頭に向かいました。現地(荒木オトリの下の橋)に到着すると、既に車が3台位留まっていたのですが、なんとか場所はキープできました。釣りはじめて暫く泳がせていましたが、全く反応がありません。「これは変だ!」と思って大きな岩の上に立って、目を凝らして水中を見ましたが、鮎の姿が見えません。枝川の河原に打上げられた鮎を見ていたので悪い予感がします。釣り道具を残して、土手によじ登って川を見て歩きました。途中で何にも釣り人が居ましたが、誰も掛けている様子ではありません。中学校前の橋まで歩いて行く途中で、死にそうな鮎が体をくねくねとさせながら川を下っていくのを幾つか見かけましたが、元気な若鮎の群れを見つけることはできませんでした。

8時頃には、諦めて川から上がりました。完全に降参です。?さんは、この状況で5尾釣ったといふのですから大したものです。?さんと共にゆっくりとブランチを食べながら、未だ時間も早いので、その日の計画を練り直しました。

結局?さんと別れて、岡山の旭川(勝山)を目指して移動開始しました。途中で、千代川の支流の土師川の様子を橋の上から見ると、なんと鮎が見えるのです。釣り人は居ません。これは竿を出してみる価値が有りそうだと思って用意をしていると、別の釣り人が二人やってきました。この方達も坊主だったようです。狭い川ですが、仲良く釣りましょうねと、3人で川に入りました。ここで、竿を出すと直ぐに反応がありました。天気も良いし、時間的にも活性が高まっていたのでしょうが良い釣りができました。狭い川でしたが、上に行ったり下に行ったりして、午後4時頃まで解禁日の釣りを堪能することができました。釣果は25尾でした。





## 6月16日(月) 袋ダモの修理(改良?)

溪流相の川で鮎釣りをする時にと思って、今年初めて袋ダモを新調しました。昨日、智頭の土師川でも便利に使っていたのですが、壊れてしまいました。

壊れると言っても、タモのフレームがハンドルから外れるという軽微なものです。メーカーに修理依頼するほどのものでもありませんし、壊れ易いものを作ってケシカランとクレームをつけるほどのことでもありません。(本当はもっと壊れにくく作って欲しいのすが・・・)丸いタモのフレームのハンドルへの接合方法が宜しくないようですので、それを改良すれば良いのです。最初はフレームに小さな穴でも明けようかと思いましたが、それでは強度が弱くなってしまうので、根巻糸をフレームの両側に何回か巻いて、フレームとハンドルとフレームを糸で縛ってフレームがハンドルの溝(穴)から抜けないようにしてみました。若干ガタがありますが、糸が緩んだり切れなければフレームがハンドルから外れることはないでしょう。



今日は朝からブドウ園に行って、摘心、棚付け、虫取りなどの作業をしました。午後からはFIMASAOで太陽光発電所とアンテナタワーの下とブドウ園の草刈をしてから、ブドウの世話を再開しました。朝10時頃から夕方7時頃まで良く働きました。

## 6月17日(火) 農作業の後で鮎釣り

朝7時半から、ブドウ園で昨日の作業の残り刈払機で草刈をしました。9時には作業終了したので、鮎釣りに出かけました。農作業の後で鮎釣りというのは、私にとって慣れていない行動パターンなのです。

今日、出かけた先は岡山県の旭川の上流域にある真庭市勝山地区です。ここは我が家から車で約1時間。私でも鮎が釣れそうな最も近いポイントです。勝山は6月15日に解禁して、その日はかなりの釣果があったと噂されているので、確かめに来ました。

現場に着いて、偵察のためにぐるっと一回りしてみました。魚影は薄いようですが、鮎は見えます。釣り人の数は、見える範囲で10名ばかりでした。日券にしようか年券にしようか迷った末に年券を買うことにしました。近場なので、後二回来れば元が取れるのです。シーズンが始まる前から、此処の年券を購入することは予定していたのでした。高速道路料金は値上げされるし、ガソリン代も高くなっているので、近場で遊ぶのが経済的です。

オトリ屋さんに行って、色々情報を仕入れたりしていると、12時近くになったので、車で昼飯にカップラーメンを食べてから入川しました。

天気は曇りで照り込みが無いせいか、アタリがちっともありません。30分後にアタリがありましたが、バラしてしまいました。1時間が過ぎた頃、似鯉にやられて仕掛けを切られてしまいました。オトリはへろへろになっているので、ロクに泳ぎません。このままだと、最後のオトリも似鯉にやられてしまいそうです。

オトリは、ほぼルアー状態になっていたもので、流れの速いところを見つけて少し重めの1号錘をつけて沈ませて引くと……なんと、見事、やっと掛かったのです。最初の一尾をゲットしたのが、2時半を回っていました。それから、最初の一尾を掛けたポイントの近くでポツポツと6尾掛けました。ちっとも掛からなかったことを思えば快進撃です。4時になると釣り客は皆上がってしまって、私一人になりました。「まだまだやったるでえ」と思って、川下に下っていきましたが、またまた似鯉に仕掛けを切られてしまい、やる気がぷつんと切れてしまいました。勝山は似鯉の多いポイントです。気をつけましょう！





## 6月18日(水) 鮎仕掛用ツールの改良

私は、フライタイイング用のバイスを逆バリを結ぶ時やゴム背バリを作る時などに使っています。バイスを取り付ける台は、木で中に錘を入れて自作しました。

金属糸などのラインを4mの長さなどに切る時、がまかつの仕掛巻で巻いた回数をカウントして長さを測っています。この時に使用する、新しいラインが巻かれた糸巻きを固定するための心棒を、バイス台に取り付けました。心棒の材料は直径約5mmのバルサ製の丸棒です。収納する時には、心棒(木の棒)を取外します。これで、作業性が格段に良くなりました。仕掛けを作るのも楽しみですから、気持ちよく作業できると、より一層楽しくなります。



今日は朝から弱い雨が降りました。降ったり止んだりの天気で、外で作業しようかと思って準備していると降り始めるとい始末です。家の中で、鮎の仕掛けを作ったり、電気工事士試験の勉強をして過ごしました。

夕方5時頃には薄日も射ってきて、雨が上がったので、ブドウ園に草刈に出かけました。

## 6月19日(木) 農作業&鮎釣り

今朝は6時半頃からブドウ園で草刈を開始して、8時過ぎに燃料を使い果たしたので終了にしました。それから積み込みをして鮎釣りに出かけました。行き先は勝山です。

一昨日は似鯉の餌食になったので、今日は支流の新庄川に入りました。前の日曜日に解禁したばかりなので、平日でも釣り客は結構入っています。川が狭いので釣り荒れてきているようで、あまり釣れていないようです。

私は今日も厳しい釣りでした。最初の一尾が掛かったのは、始めて1時間以上経過してからです。色々場所を移動して、一つのポイントで2~3尾ずつ拾って歩くのがやっとです。5時前までやって、やっと10尾という釣果でした。

今日は、オトリを缶に入れて、生きたまま家まで持ち帰りました。臨時に水槽を作って水道水を入れてエアポンプでブクブクさせましたが、8時頃までに全部死んでしまいました。オトリ代を節約しようと思ったのですが、うまく行きませんでした。



## 6月20日(金) 日野川(生山)で鮎釣り

明日明後日と雨の予報なので、行ける内に行っておこうということで、連荘ながら鮎釣りに出かけました。一応、朝6時前から1時間半程、ブドウ園の草刈をしてから、日野川の生山に行きました。

9時前に家を出て、オトリ屋さんについて話をしていると11時を回ってしまったので、今日も早めの昼飯をとってからスタートしました。平井美容室の傍の橋の下流には誰も入って居なかったので、貸切でした。最初の一尾は30分程経過した時に掛かって、直ぐにもう一尾掛かりました。どちらも15cm程の小ぶりちゃんでした。しかし、そこからは中々掛からず、オトリも弱ってしまい、またまた錘のお世話になって漸く大きめの元気鮎が掛かりました。元気鮎に替えると2~3尾パパッと掛かりましたが、一瀬一尾のペースでした。4時半までやって、10尾の釣果でした。



## 6月21日(土) 袋ダモの改良(その2)

先日、袋ダモのフレームとハンドルの継ぎ目が外れたので、糸で補強しました。これだけでは心細かったので、更に頑丈に補強しました。見た目は少し悪いのですが、A/B二液型のエポキシ接着剤をハンドルとフレームの継ぎ目の辺り全般に塗りたくりました。タモの網も補強材のメンバーとし



て参加させてあげました。安物の袋ダモなので、替えダモにするなんて考えていないので、タモが取り外せなくても大丈夫です。

タモというのは、直接魚体に触れて擦れるので、結構臭くなるものです。川から上がって、家に帰るまでの間、車の中に放置すると、車が臭くなってしまいます。そこで、私は、大きめのビニール袋にタモを入れて、インシュロックの取り外しが可能なタイプで縛っています。車の室内に臭いが漏れなくてグーです。

袋ダモだからビニール袋に入れているという訳ではありませんので、悪しからず。



今日の天気予報は雨だったのですが、ほぼ一日曇りのままでした。途中で、ほんの少しだけパラパラという場面がありましたが、全般的に農作業日和な一日でした。

朝からブドウ園で摘心、誘引、棚付、虫取と防除作業を行いました。8時間も作業してへトへトです。これで、心置きなく一週間程遠征に行けそうです。

## 6月22日(日) 九頭竜川に到着

今朝は雨模様でしたが、九頭竜川遠征のための積み込み作業をしました。昼食後にホームページの更新をしてから午後1時に出発しました。途中、津山のスーパーで食料品を買い込んで、中国道を東進しました。吉川JCTの手前で「宝塚トンネルで事故のため7km渋滞」との表示があったので、名神道に行くのを止めて、舞鶴道に回りました。

西紀SAで30分ばかり仮眠をとって、そこからノンストップで永平寺町までやってきました。片道約400kmですが、8時前に着きました。

7月から休日割引が50%から30%になるので、今回の遠征がラストチャンスです。片道で約1000円の値上げになります。

途中、所々で雨が降っていましたが、明日から晴天が続くことを期待しています。

## 6月23日(月) 九頭竜川遠征初日

朝9時頃服部オトリに行って、挨拶をして、年券とオトリを仕入れました。ついでに、何処に入ればよいのか聞いたら、オトリ屋さんの正面右岸側に良いというので、そこに入りました。

10分もしない内に最初のあたりがありましたが見事に仕掛けを切られてばらしてしまいました。今年は、複合の0.03号のラインと0.3号のツマミ糸でずっとやっていて、鮎に仕掛けを切られたことはなかったので、絶大な信頼を置いていたのですが、九頭竜川の鮎は手ごわそうです。

仕掛けを0.05号のラインに替えて、暫くやっていたところ、20cm超の鮎が掛かりました。2~3匹掛けたところで、あたりのない時間が続き、オトリが弱ったので交換しようかと思って寄せようとしたところ、25cm位のヤマメが掛かりました。慎重にお宝をゲットして、夕食のおかずとして、3枚におろしてムニエルにして食べました。

午前中はそれ程でもなかったのですが、昼からは風が強くて10m/s位は吹いていたと思います。竿を出していても持つだけで体力が要るし、あたっているのかどうかを判断するのも困難な状況でした。結局昼からはボウズ、根掛りやツマミ糸が切れるなどのトラブルで、2~3匹をロストしてしまいました。

明日からは、ツマミ糸も0.6号程度に太くして挑みたいと思います。



## 6月24日(火) 九頭竜川遠征二日目

遠征二日目は、吉波(高压線下)でやりました。昨日仕掛けを切られたことが悔しくて、夜中に目が覚めたので、仕掛けを作り直しました。それが効を奏して、今日はトラブルなしで、一日中楽しく遊ぶことができました。錘を使わなかったもの良かったと思います。

仕掛けは、ライン0.05号(北越:Metabeat)、ツマミ糸0.6号フロロ約30cm、中ハリス0.8号フロロ約25cm。鼻環周りの仕掛けは、固定式背鉤に鼻環と逆鉤を両方とも遊動式にしたもので、鼻環と背鉤の間にビーズを入れて、ビーズにツマミ糸を結んでいます。スーパーウェポンに似ていますが、鮎が掛かった時に背鉤が確実に抜けるように改良したものです。既に、この手の改良をしたものを使われている方もいらっしゃるかも知れませんが、名づけてウルトラウェポン(Ultra Weapon)です。

釣果の方は、下手なりに満足の15尾で、サイズは15~18cm位のものばかりでした。





## 6月25日(水) 九頭竜川遠征三日目

午前中は中島左岸分流(写真左)

午後から高压線下右岸(写真右)



今日は10時過ぎから風が強くなりました。ウェザーニュースのピンポイント予報での風速予報は、勝山で3m/s 福井で4m/s 位だったと思うのですが、10m/s 近く吹いています。どうしてだろう???と考えると、永平寺町は福井と勝山の間なのですが、山に挟まれた狭い地域であるという地形的な条件のため、風速が倍増しているんだろうと思います。流体力学で言うベルヌーイの定理ですね。

ということは・・・勝山に行けば風は弱いということか？

天気は良いけど、10m/s の風は鮎釣りの面白みを半減させています。

## 6月26日(木) 九頭竜川遠征四日目

午前中、飯島本流左岸側(写真左)、午後、高圧線左岸側(写真右)

今日で九頭竜の釣りも四日目になりました。川の状況や風の状況、何処で釣れそうとか、何処に何人くらいの釣り人が居そうだとかが、大雑把にわかるようになってきました。何人もの人と会話をして、情報を仕入れた結果です。

午前中の釣果は12尾、午後からの釣果は6尾でした。相変わらず午後になると風が強くなり、悩ましい状況です。



## 6月27日(金) 九頭竜川遠征五日目

午前中は谷口、午後から吉波に入りました。谷口に入るのは初めてでしたが、時期も時期だし、噂どおり小さめの鮎ばかりで、オトリが繋がらない有様でした。9尾掛けましたが、オトリになりそうなのは3尾くらいでした。そんな状態で、昼から移動したので、吉波でも最初の一尾を掛けるまで苦戦しました。やっぱり、最初に何処に入るかは重要ですね。行った事がないので、行こうかというのなら、午後から様子を見に行くというのが良いように思いました。

夕方はMさんとそのグループでバーベキューをしました。トレトレの鮎の塩焼きは絶品でした。





## 6月28日(土) 九頭竜川遠征六日目

今日で九頭竜川も六日目です。休日割引の恩恵を受けるには、明日には帰る必要があるので、今日で終わりにしようと思って、気合を入れて7時前から飯島の本流に入りました。何しろ、今日は土曜日なので、釣り客も平日よりは多くなりそうだからです。昨日の失敗もありますし、「一にポイント、二にオトリ」です。

最初に入ったところでは2尾しか掛かりませんでした。少し移動した場所で20cmサイズが5～6尾かかりました。これでオトリの心配をしなくて良くなったので、楽しく釣りをすることができました。

昼から小雨が降り出して、少し釣り人が少なくなったようです。飯島の一番瀬に入ったところ、20cmサイズを10尾くらいポツポツと掛けることができ、全然雨など気になりませんでした。午後は雨が降ったり止んだりの天気でした。そこらじゅうを歩き回って、本日の釣果は21尾でした。

明日は朝から帰途に着こうと思って、早めに上がって、釣った鮎を全部、氷締めをしました。



## 6月29日(日) 九頭竜川から帰宅して

今朝5時頃目覚めると、外は雨で、九頭竜川は増水していました。今日は日曜日、鮎釣りを楽しみにされていた方々にはお気の毒様でした。



雨の永平寺町を7時頃出発して、帰路に着きました。途中、舞鶴道の加斗PAと中国道の安富PAで休憩をとって、我が家には午後3時頃到着しました。

家に着くと、洗濯物やゴミなどの片づけをしてから、菜園やブドウ園を見回りに行きました。

ブドウ園で特に気になったのは、蔓の先端部が枯れているのがかなり沢山あったことです。良く見ると、糞のようなものが付着しており、割ってみると食害による空洞ができていました。たまたま、虫ががいるのを確認できました。好ましくない症状です。何という虫なのでしょう？

## 6月30日(月) 原因はブドウスカシバか？

昨日ブドウの異変に気付いたので、何が原因なのかを、本やインターネットで調べたところ、ど  
うやら犯人はブドウスカシバの幼虫のようです。

6月21日に防除をしたのにも拘わらず効果が無かったのでしょうか？虫の場合には、前もって防除するというよりも、虫が出てから駆除するというの方が効果的らしいので、朝の内にスミチオン乳剤1000倍液を展着剤アビオンEと混ぜて散布しました。相手が主に枝先に居ることが判明したので、特に枝先に集中的に散布しました。

その後で、摘心、誘引、棚付、虫取などの作業をしながら、他に枯死した枝先は無いか入念に見て廻りました。極最近枯死したらしき枝先を割ってみると、小さな(約8mm)虫がいました。別の枯死した枝先を割いてみると、そこに虫がいた形跡はあるものの、既に引越して空家になっているものが多数ありました。

ブドウスカシバは成虫(蛾)が卵を枝先に一つづつ産み付けた後、幼虫になって枝先に食入して、暫くしてから転食するらしいので、空家になっていたのは転食した痕なのでしょう。転食という熟語は聞いたことがありますが、転食というのは初めてです。一旦木の芯に入って、また出てから、他の場所に移動して、また食入するということなのでしょう。

枝先に留まっている時なら捕殺できますが、他に移動した後は、何処にいるのか探すのが一苦勞です。朝の内に殺虫剤(スミチオン)を散布しましたが、食入した状態だと効果があるのか疑問です。

同じ害虫でもマメコガネやドウガネブイブイなどは、葉を食べるだけなので、可愛いもんです。発見するのは容易だし、余程でないかぎり枝が枯死することは無いからです。

ブドウスカシバなどのスカシバ類やブドウトラカミキリ、コウモリガなどの幼虫は、ブドウの木に食入して枯死させてしまう悪い輩なので、本当に注意しなくてはなりません。

